The Northwood Lair

2 のプロローグ 1

（ご注意：オリジナルの著者は、成人文学に触発されたように、これは、いくつかの R-18 エロ言語が含まれます。）

ハーロウソーンと彼の取り巻きは、オークションハウスで自分の席を取りました。彼はいつも、ステージのドアの反対により、他のコーナーに固定全員上記の良好な視野角のある場所に座ることを選びました。影が壁にキャストしているかのように、彼は常に彼の腕にまだ座っていました

静かに渡りました。ショーの途中、ハーロウは退屈と感心しました。オークションハウスは、常に最後のために最善を保存し、ハーロウは、彼らがにスキップ望みました

良い部分。彼はあきらめることを約あったのと同じように、彼は彼女を見ました。

彼女は、光沢のある長い水色の髪、大きな青い目と青白い、完璧な肌に絶対に美しい少女でした。彼女の奴隷の服は彼女に何の正義もしませんでした。ハーロウは彼女を望んでいました。それだけで着用する彼女のいくつかのかわいい服を与えることであった場合であっても。

彼女の美しさに魅了さと彼の欲望によって消費、ハーロウはあっても、入札が始まっていたが実現しませんでした。彼はそれから彼自身を鳴らしました。彼は、入札がにあったといくつかのクレイジー高い入札数を投げたかわかりませんでした。みんなの注目は、ハーローになっていたが、彼が見た目の唯一のペアは、ステージ上で大きな青いものでした。彼女は驚きと恐怖で彼を見上げました。彼は彼女に大きな、邪悪な作り笑いを与えました。彼の入札に一致または上回ることができ、誰がなければ、彼女は彼でした。

女の子は、スタッフが彼に育て、そして彼は彼が何かに興味を持っていないことを知っていたので、Harlow および彼の取り巻きは彼の宝物は、彼が持っていたチェーンのもう一方の端に彼の後ろを歩い、オークションハウスを去りました。女の子は厳粛に彼女の手錠を見下ろしました。彼女は過去の涙でした。奴隷制度の最初の月は彼女のために拒否段階だったが、第三ヶ月後、彼女はそれを受け入れ、彼女は彼女の新しい人生のベストを尽くすとなるだろう自分自身を語りました。

彼女はハーロウの味のために十分に速く歩いていませんでした。彼は彼女に直面して振り向きました。彼女は彼が停止し、彼女は彼にぶつかっまで歩いて続け気付きませんでした。彼女は息を呑んだと、彼女が後方につまずいたとして彼女のバランスを失う顔を赤らめました。彼は彼女をサポートするために、彼女の背中に手を置きます。彼女はすでに何か間違ったことをしませんでした期待して、目を大きく見開い彼を見上げました。彼は彼女の高さは彼の胸に上がってきた、それはほとんどハーロウを笑わせたい作られ、彼女を見下ろしました。彼女はとても弱く、少し栄養失調に見えました。ハーロウは彼のポケットから彼女の手錠の鍵を取りました。彼は、彼らは彼が弱い、変な感じさせる触れ、手錠をつかんで、彼は彼の力を失って自分を感じました。彼は熱いストーブに触れていたように彼は、袖口から離れて手をリッピング。彼女は彼が実現するために失敗した強力な魔法の手錠を着ていました。彼女は隠された権力のか、オークションハウスは、単にいくつかの余分な予防措置を取ったので、いくつかの種類を持っていたので、それがあった場合、彼は疑問に思いました。

彼は冷静に彼のポケットに鍵を返却し、再びチェーンの終わりをつかみました。彼女はいぶかしげに彼を見上げました。彼は彼女をにらみつけ、彼女は地面を見て、彼女の頭を落としました。彼は一生懸命彼女のチェーンに引っ張られて、彼女の小さなフレームが速い彼の後ろに歩きました。彼女は新しいマスターが怒らないように彼女のベストを尽くすために自分自身にメモをしました。彼は突然、彼女の手錠を脱いについて考え直しを持っていた理由を彼女は疑問に思いました。彼女はこれが彼女の治療は、任意の悪化させることはないことを望みました。

町の端に、ハーロウは彼の手を開催し、彼らの前に到着した小、馬に取り付けられた船団、彼らの前に停止した貴族のためのエレガントなキャリッジフィットを召喚しました。車列のライダーは重く月明かりに輝いギアと装甲ました。ハーロウは、キャリッジにミクを主導し、車列が家のために始めたとして彼女の後ろに乗り込みました。

彼女は要塞のように感じたものを内部で彼の馬車を降りたまで彼女が再び見えませんでした。彼女は不思議そうに周りを見回しました。そこ冷笑と彼女は合格とオフ色の発言をしたどこにでも筋肉が結合した装甲兵士はあったが、どのような忠誠兆候は彼らが表示された保持されていません。彼女は本当に強力な誰かの奴隷でした。

「あなたの名前、スレーブは何ですか？」ハーロウは尋ねました。「初音ミク」は、少女は静かに答えました。ハーロウは、「私はこれらの人のリーダーであり、この領域、ハーロウソーンけど、あなたはマスターに私を呼び出します。"、彼自身と彼の取り巻きを導入しました初音ミクは「はい、マスター。」、うなずきました

ハーロウはドアを開け、彼女は内側に彼に続きます。ホールは、無色と暗くなっていただけの壁には、いくつかのライトに照らされたが、彼女の目はすぐに調整しました。彼らは 4 または 5 部屋を貼り付けました。彼女は、彼らは台所のように、のために使用されたものをすぐに言うことができる一部の客室。しかし、浮動オブジェクトとダウン誰かとデバイスのすべての種類を保持するためのストラップ付きの椅子で、この一つの部屋で満たされたジャー付きの客室がありました。ミクはこれまで、これらの部屋はのためにあったか、どのようなこれらのデバイスが何をしたか知っている必要はしたくありませんでした。

最後に、二人は部屋で停止しました。ハーロウは、ドアを開けてミクは内部行くの指摘しました。これは、大規模な天蓋-ドレープベッド、テーブル、椅子およびドレッサー付きの小さな部屋でした。ハーロウはドレッサーを開き、彼はドアの外の彼の取り巻きのメンバーから食品のプレートを受け入れた後、ミクの服を手渡し、彼はテーブルの上に食べ物のプレートを置きます。ハーロウは彼のポケットから鍵を取り、それらに触れないように注意しながら、ミクの手錠をアンロック。ミクは、より良い、すでに感じました。

「あなたは私があなたを介して、置くつもりです何のためにあなたの力を必要としている、食べます。」ハーロウは言いました。ミクの飢餓が出て、彼女の恐怖を加重します。彼女はテーブルに座って、すぐに彼女の料理を食べました。彼女は温かい食事をしたし、彼女はしばらく何も食べていなかった最後の時間を覚えていませんでした。ハーロウは、彼女は辛抱強く食べて見ました。 "忘れないで

服については、「彼は優しく彼女を思い出した。ミクは上の服を見て

ベッド。彼らにはあまりありませんでした。彼らは想像力に非常に少し残しました。

ミクは彼女の食糧を終えた後、テーブルから立ち上がってベッドに 2 つのステップを歩きました。彼女は非常に短いスカートを開催し、ハーロウに渡って見ました。「見てはいけない " と、彼女は顔を赤らめました。ハーロウは、「私は私がやりたいことができます、あなたを買いました。」、smirked ミクさんの心はレース。彼女は服を脱がしハーローから背を向け、早く彼女ができたとして再び服を着ました。

ドレッサーの上に鏡がありました。また彼女の胸が出て下落するだろうように見えました

任意の時点で彼女の小さな黒いバンドゥトップの、彼女は彼女の底を見ることができます

胸示します。ハーロウは、結果に非常に満足して微笑んで、「確認してください

私の取り巻きのいずれかがいることを見れば、彼らはないかもしれないので、その上部には、オンのまま

自分自身を収容することができる "と、彼は嘲笑。ミクは顔を赤らめハーローにらみつけました。

ミクは恥ずかしそうに下に彼女の発見プライベートエリアを非表示にするには、彼女のスカートの前面に下向きに引っ張ら。「P-てください！私のカバーアップを！」彼女は、恥ずかしさと赤い顔を懇願しました。ハーロウは、ため息をついた「ファイン」と彼はドレッサーを開き、黒の着物カバーアップを引き抜きます。彼女は彼からそれを取って、それを上に置きます。それはかろうじて彼女の底をカバーしますが、少なくとも彼女の胸は、薄手材料を通してずっと表示されませんでした。初音ミクは、彼女の衣装でコンテンツを微笑みました。

"あなたは非常に長いために、あなたのトレーニングが間もなく開始されることを必要としません。あなたがここに滞在するつもりなら、あなたはトレーニングが必要になります。」

「彼女はここに滞在するつもりだった場合は、'ミクはほとんど、笑いましたか？彼はそれがオプションだったように、いや、名誉がここにそれを言いました。彼女は奴隷だった、彼女はここにしかありませんでした。

「トレーニングマスターのどのような？」彼女は尋ねた。

"あなたが表示されます、"ハーロウは微笑みました。

ハーロウは彼に従うことをミクに言った、彼らは彼らが以前通って来た同じ廊下を行ってきました。ハーロウは、椅子のある部屋で停止しました。ミクさんの心は沈んだと彼女の胃が宙返りを始めました。

「座ってカバーアップを脱いで、"ハーロウは、注文しました。

ミクは恐怖でが、カバーを取り外し、従いました。ハーロウは椅子の上にストラップを締め始めました。「これはどのように私を訓練しているのですか？」ミクは抗議しました。

「あなたが私に話すときは、マスターとして私を扱う、"ハーロウは厳しく彼女を思い出しました。

ミクは恐怖に息を呑みました。「これはどのように、マスターが私を訓練しているのですか？」彼女はおずおず繰り返します。

「私は精神的にも肉体的。内側と外側をあなたの両方を訓練するつもりです。」ハーロウは魅力的で、彼女の上腹部をなでると述べました。ミク。彼女は彼女が彼女のマスターの良い側に取得したい、自分を落ち着かしようとしました。彼女は何を知っていた誰のための準備ハーロウを見たとしても、彼女の呼吸を維持するために自分自身を余儀なくされました。多分それは拷問だった、ミクは思いました。彼女はまだちゃんと拷問されていませんでした。彼女は、平手打ちヒットし、彼女の捕獲者によってホイップ彼女はオークションハウスで売りに出された前に、それはこのような何もなかったされていました。ミクは、彼女が泣きするつもりだったように感じました。これは彼女が苦痛を扱うのが得意ではなかった彼に伝えるために良い時間でしたか？それとも遅すぎますか？彼も気にしませんか？これは、すべてのミクが自分自身を言い続け、オーバーすぐになります。何も永遠に続くません。何もありません。

おそらく奴隷であること、を除きます。

ミクさんの手が震え始めたと彼女は抑え切れずに静かに泣くし始めていました。ハーロウは、彼が振り向くと、彼女を研究するために何をやっていた停止しました。彼女の顔は、シートとして白色であった、彼女の目は彼女の表情は非常に緊張した、広いオープンと脅迫涙でした。彼は彼女に作り笑いを与えました。「既に最悪を想定しました？」彼は彼女の頬に手を置き、親指でゆっくりとそれをなでると述べました。彼女の小さな whimpers は何もないようなハーロウのエゴを供給しました。ミクは彼女を傷つけないように彼を請うためにひどくたかったが、彼女は彼女が話すように言葉を形成することができませんでしたおびえました。ハーロウは、「私はあなたの世話をします、心配しないでください。」、彼女の長い、柔らかい髪を彼の指を引っ張っ彼はそれがとても柔らかく、ふっくらした、彼女の下唇全体に指を走りました。「私はすべての後、あなたのキーパーです。」ハーロウは彼女から離れて回すと述べました。

ミクはまだ彼女の頬に彼の暖かい手を感じることができました。彼女は彼のタッチが好き、それは少し彼女を落ち着いていました。彼女は彼女のマスターは非常にハンサムだった、ラッキーでした。ミクは彼女が彼女の人生の残りのために醜い、豊かな貴族によって虐待されて動けなくなるだろうと思いました。しかし、強力かつ神秘的なリーダーは、エキサイティングに聞こえたという。彼女の楽観主義は、彼女の顔に戻っていくつかの色をもたらしました。彼女も柔らかい笑顔を集めることができました。

ハーロウは、必要に応じて椅子のストラップを再締結、彼女の服を脱がし。彼女は助けるが、ハーロウは彼女の裸の体の上に見えたとして恥ずかしいことができませんでした。これは、男は彼女の裸の体の上に見えた初めてではありませんでした。彼女は最初の捕虜になったときに

彼らがした最初の事は彼女が価値があるだろうどのくらい見るために彼女の服を切り落としました。彼女はちょうど約死亡していました。彼女は再びその低さを感じたいと思ったことはありません。そして、それを更に 2 回起こりました。彼女は巨額の資金と引き換えに別の人に引き渡されたときたら、再度オークションが始まった直前に。彼女はこれらの人のいずれかに属していたように彼女は感じていませんでした。彼女は彼が彼女に望んでいた何かを行うことができ、彼は正しかった、ハーロウに属していました。

ハーロウは、黒革手袋のペアに入れていたと黒のハンドルと小さなツールと端にスピニング銀ホイールを握っていました。ホイールは小さなスパイクで覆われていました。それはほとんどの小、フック側ピザカッターのように見えました。オブジェクトが彼女の肌に近い来たミクはパニックモードに戻りました。「義和は、何のためにそれですか？」ミクはつぶやいすることができました。彼女はハーロウが彼女を無視気づいたとき、彼女は、「マスター！」を追加しましたハーロウはまだ彼女に感心見えませんでした。「あなたは私を信頼していない？ "ハーロウが言ったとミクは顔を赤らめた。彼女は黙っていた。彼女は右の彼女の胸の間に、風車工具の刃が肌に接触見ました。彼は優しく彼女の肌全体に圧延し、それがなかったの't はそれが少しだけを傷つける。悪い感じが、それは良いと感じた。ほとんどのマッサージのように。彼はそれがけがはなかったように慎重に、彼の手にフック側の刃で正確でした。

ミクは間違いなく彼の手が実施された、彼は経験豊富な男だと信じていました。ブレードは彼女の胸をロールアップし、部屋の中に冷たい空気からハードになっていた彼女の小さなピンクの乳首を横切るようにミクが見ていました。彼女はそれが良いと感じ、息を呑みました。ハーロウは、彼女の反応に微笑みました。彼は、彼女が身をよじるようになったまで彼女の胸を横切ってブレードをロールし続けました。

「まだ保留または私はあなたをカットしましょう」と、彼は彼女を警告しました。初音ミクは、ハード赤らめ、彼女の下唇にダウンビット、まだあることを自分自身を余儀なくされました。彼は彼女の腰に達するまでハーロウは彼女の胃ダウンとボンデージ全体で刃をロールとして、彼女の心はレース。

彼女の足は少し広げたハーローは明らかにミクの猫から、彼の緊縛椅子に滴下水たまりを見ることができました。彼は指を取り、ミクに触れないように注意しながら水たまりを通してそれをスワイプ。 "これは何ですか？"ハーロウはミクを示し、彼女はまだ彼女の唇をかむ。「すみません、マスター、 "彼女は言いました。彼女は何か間違ったことをしましたか？

ハーロウはミクの顔の前で指を置きます。ミクは混乱し、彼を見て。 "、奴隷をあなたの口を開き、「彼はイライラ言いました。彼女は従っハーローは、彼女の口の中に彼女の湿りを拭き取ります。

ミクは前に自分自身を味わったことがなかった、それは彼女が今まで持っていたものとは異なっていました。それは甘かったです。これはのような味何誰だった場合、彼女は疑問に思いました。ハーロウはゆっくりミクのジュースが彼女の外に垂れ見て、彼のツールを実行し、彼女の内側の太ももダウン。ミクの呼吸が重くなり、彼女の小さな whimpers は大きく、より頻度が高かったです。彼女も数回うめきました。ミクは、ハーローは約束していただけのように、彼女は彼女の太ももの内側に小さなカットを受けました。ミクはキャンキャン。「1 は依然として保持するためにあなたに言ったが、あなたはちょうどあなたが意志を聞いていないのだろうか？」ハーロウは、彼のツールのスパイクに少量の新鮮な血液を眺め言いました。

ミクは精神的に自分自身を厳しく非難しました。しかし、彼女はそれを助けることができなかった、それは本当に良いと感じました。彼女はそれを認めたくなかったが、それは彼女の痛みは何か、何が触れることにしました。彼女は彼女の束縛の下 squirmed として彼女の猫がドキドキ。彼女は敗北にうめきました。彼女は彼のなすがままになっていました。しかし、彼女はそれについて何もするハーロウを聞いてあまりにも恥ずかしかったです。彼女は密かに彼が望んだにもかかわらず。

ハーロウは彼女まで彼女の太もも全体のフック側のブレードを実行したとしてミクは身をよじるを続け

覚醒は、そのピークにありました。ハーロウは、彼のツールを置くと感心する後ずさり

彼の仕事。ミクの顔は涙で染色しました。それはそんなに痛みはありませんでしたが、

彼女は彼の注意は彼女の別の部分に向けることがしたかった方法をひどく

ボディ、彼女の足の間で一部のように。彼女は、右されていたこれは拷問でした。

それは苦痛でした。彼は彼女の猫を除いて、彼女の体のあらゆる部分に触れることになります。ミクが持っていました

男性とそのようなセックスか何かを持っていたが、これは起こっていたところ、彼女は知っていたん。

「あなたはすべてが何をかけて働いて得ている。」ハーローは言った。「あなたはどのように期待しています

あなたがこれを処理できない場合、私の隠れ家に滞在する？」ミクはとても弱く、恥ずかしく感じた。彼は確かに彼女と感心しました。彼女は彼のために十分ではなかった場合、彼は離れて彼女を与えるだろうか？彼女は考えたくありませんでした。それについて彼女の状況はこれよりも多くの悪いことができた彼女は戻ってオークションハウスに行きたくなかった。。。彼女はそこに別の夜を扱うことができるとは思わなかった "私は大丈夫だよ、マスターは、続け

てください」ミクは勇気を持って言ったハーロウはハーロウは本当にこの女の子が好き。。"非常によく、その後私の奴隷に。";これは彼がしばらく持っていた最も楽しかったです。

彼は振り向くと、羽毛バックミクに来ました。ちょうど単一の長い、厚い羽毛。ミクは疲労でそれを見て側に頭を傾け。ハーロウは走りました

彼女の乾燥した唇の両端の羽の先端は、それが本当に良いと感じました。彼女はピリピリ感から彼女の唇をなめました。羽は彼女の鎖骨を横切っとの間に、彼女の胸の下で、彼女の首の下、彼女の美しい顎全体に引きずら。ミクは彼女がくすぐったいた、笑いました。ハーロウは、彼女の乳首を横切って羽をドラッグし、ミクは椅子のストラップに対して彼女ができた最高の彼女をバックアーチ。「うーん、"彼女は静かにうめきました。ハーロウは彼女の胃をスキップし、彼女の足と猫間の裂け目に対する羽を起毛。

ミクは、彼女が、これはそれが羽だった、フック側の風車ではなかったことを思い出し、その後うごめくから身を停止しました。彼女は彼のそれぞれの周り腰をウィグル

動き。それは素晴らしいと感じました。ハーロウはミクの小さなカットを横切って羽をドラッグ。

彼女は痛みでうめき声、それが刺さ。ハーロウは彼女の後ろにカウンターに渡って歩き、

引き出しを開けました。初音ミクは、金属の素晴らしくを聞くことができ、その後、ハーロウが返さ

光沢がある、赤丸めボールギャグを持ちます。彼は、初音ミクを表示するためにそれを開催された「あなたが痛みを扱うのが得意じゃないので、私が吸うために何かを与えたいと思った」と彼は smirked。しかしミクは、それが何であったか知りませんでした。

ハーロウは、彼女の頭の後ろにギャグを締結し、ミクはそれに慣れるしようとして咳。彼女は彼女のギャグにチョーク状態として、彼女は大きな、美しい、無邪気な目で彼を見上げました。

彼女の口を大きく開いて彼女はとてもかわいいだった、ハーロウは思いました。彼は彼のペニスを想像しました

ギャグの代わりに、彼の頭の外に思考を押しました。まだ、彼は自分自身を思い出させました。

彼は手オフの手袋の 1 を削除し、彼は彼のポインタと中指の間に彼女の乳首の 1 を挟まとして彼女が見ていました。彼女はうめき声を上げまたは多分大声で叫びましたが、それは彼女の口にボールによってこもりました。彼は彼女の胸を搾りとしてよだれの道は、彼女のあごの下に

その方法を働きました。ハーロウは彼の手から他の手袋を削除し、彼の指の間に彼女の他の乳首をクランプ、彼女の他の胸をカップ状。彼女はと彼女のよだれは彼女の胸を下に実行している、彼女のあごをオフに滴下しました。彼の舌の先端で、彼はミクの顎オフよだれを舐め。彼はかろうじて彼女の唇の角をなめ、苦しみの中で彼女の猫ドキドキを作るのに十分でした。

これはミクが今まで経験した中で最も複雑な気持ちでした。彼女は、彼女がハーロウを望んでいたかどうかわかりませんでした彼を嫌って、彼を愛し、彼を恐れたり、彼を尊敬しました。多分それは、すべての少しでした。

ハーロウは羽を取り、再びミクの乳首を渡ってそれを実行しました。彼らはひどく、彼女は彼がただ一人でそれらを残して望んだ傷つけます。ハーロウは、2 本の指を取り、すくい上げ

、椅子の上に水たまりからミクの湿りのいくつかの詳細はまだ彼女の肌を回避することができます。彼は彼の指を潤滑し、ミクの乳首をこすりました。ミクは喜びで叫びました。彼女のギャグは、彼女はよだれが腰にそれを作ったことがそんなによだれせます。

ハーロウはミクの耳に唇をもたらした、「あなたが何かスレーブをしたいですか？」彼は、低魅惑的な口調で尋ねました。ミクがうめいて、彼女の頭をうなずいて、「は、「彼女は熱心に彼を見上げて、答えました。彼女の耳の中に彼の声と熱い湿った息がアップし、彼女の背筋がゾッを送りました。ハーロウはミクのボールギャグを脱いだ、それは離れて彼女の顔から、それを引っ張ったとして、彼女の唾液はまだ彼女の隣にテーブルの上に設定し、それにしがみつい。彼女の口と唇は非常に湿りました。初音ミクは、彼女の口から出重く息しました。「あなたは、私からスレーブを望むものを教えてください。」ハーロウは彼女の近くに彼の顔を保ち、彼女の目を検索すると述べました。

ミクは顔を赤らめ、彼女は過去の誇りだった、彼女は彼女が望んでいた正確に知っていたし、彼女

それを認めることを恐れたり恥じ感じませんでした。「私はあなたが私の猫をタッチします、マスター、「ミクは懇願しました。「ああ？すべてのことですか？」ハーロウは smirked。彼は彼の指を取り、ミクの猫の唇の間にそれを実行しました。彼女はうめき声を上げ、彼女の目が交差し、インスタント救済の彼女のまぶたの最上部にローリング。ハーロウはミクの開いた口に指を入れて、彼女は暗示彼女の湿りをオフに舐めました。 "他に何か？"ハーロウはからかったです。「もっと...もっと、マスター。停止しないでくださいしてください！ "彼女は彼を懇願し、ハーロウは笑いました。

初音ミクは、椅子にビットをウィグル彼女の足を開き、ハーロウは彼女を与えるだろう何のために準備します。ハーロウはミクの猫を指を走った、それはそう、滑らかで柔らかく感じました

絶対に摩擦の。ミクが満足に大声で息を呑んだ、彼女が望んでいたことがありませんでした

彼女は今、この権利を望んでいた後、もっと何か。昨日彼女は絶望的に彼のなすがままに、完全にすべてだったし、今日でハーロウを知らなかったと思います。ハーロウはアップストロークとミクの目を見て、彼の指で彼女の猫の唇の間に上下は彼女の頭と彼女の足の地震の背面にロールバックします。「私は、正確に何をしたいミクをあなたを与えるだろう、"ハーロウは言いました。ミクは、彼が彼女の奴隷を呼び出すのではなく、彼女の名前を使用し、顔を赤らめ。"しかし、"ハーロウが追加された、「あなたは兼に私の許可を求める必要があり、あなたは、あなたがそれを持っているまで兼することが許可されていません。あなたが理解していますか？」ミクが何であったかカミング理解していなかったが、彼女はすぐに彼女の頭をうなずいて、「はいマスターは、私は理解しています。グッドガール」をハーローは、微笑みました"。"

ハーロウはオープンミクの小さなピンクの猫を広げて、遅い界で彼女のクリトリスをこすり。ミク

うめいハーローの指に対して腰を研削開始しました。ハーロウはミクが非常に熱く感じ始め、速くこすっと 2 本の指を使用していました。彼女はこれが彼女のマスターが話していたものだった、何かが起こるとしていたように感じましたか？彼女はハーロウを見上げて、彼は彼女が非常に近かったことを彼女の発現によって言うことができます。「マスター、私は兼ことがあります...あなたの指から？」ミクは恥ずかしそうに尋ねました。

"いいえ、"ハーロウははっきり言いました。

"マスター？"彼女は尋ねた、困惑。ミクは彼女がとても近くだった、それを感じることができました。「はい、スレーブは？」ハーローは答えた。「あなたは兼ていないか？」ミクは尋ねた。ハーロウは、「あなたの体と心をリラックス。」

ミクは彼女の目を閉じハーローは、彼の人差し指を取り、ミクの猫の開口部の周囲に円を描いた後、彼はゆっくりと彼女の内側にスライドさせ、彼女があったように彼女の体はぐったり行きましょう

暖かいので。ミクは息を呑みました。彼女は再び重い呼吸を開始しました。ハーロウはミクが再びリラックスしようとし、深呼吸を取り、ゆっくりと彼女の内外指を引っ張りました。ミクは、彼女がそれを扱うことができると確信していたちょうどその時、ハーロウはペースを拾って、彼の中指を再追加します。

ミクはうめきと、「マスターは、...私は今、イクことがありしてください？ "彼女は震え懇願しました。「いいえ、まだ、 "彼は言いました。彼女は、再び彼を懇願するまで彼が硬く、速く、彼女の内側に指を移動 "、私は...！私は...することはできませんするつもりだしてください！"彼女は、「マスターしてください！」、ミクが叫びました。「何をしてください？ "ハーロウは尋ねました。「マスターは、私は今、イクことがあります？」彼女は再び尋ねました。ハーロウは笑ってゆっくりと彼の指の速度を上げ、うなずきました。彼女は叫んだと大声でうめきました。ハーロウは、彼の指の周りに締め付け彼女の猫を感じることができました。そして、ミクはぐったり行きました。彼女の目は少しまだ重く呼吸彼女の口が開いて、閉じました。彼女はさらに数回と、彼女は無意識でした。ハーロウは彼女の外に彼の指を引っ張り、それらのオフに彼女の愛のジュースを吸いました。彼女はより簡単に呼吸することができるように彼は椅子からストラップを取りました。

彼は引き出しを経て、彼女は眠っている間、いくつかの医療軟膏を引き出します。彼女の小さなカットはすぐに治るだろうように、彼は彼女の太ももに少量をこすりました。彼

物理的に彼女を壊したくありませんでした。

彼は彼女の周りにカバーを包み、部屋に彼女の背中を実施し、ドアを開けてベッドの上で静かに彼女を置きました。それから彼は床の上にカバーを上に投げ、彼女の裸の体の上に毛布を引っ張りました。

彼は彼の指に対する彼女のパルスを感じ、彼女の首に手を入れて、彼女の隣にベッドの上に座りました。それは、彼女はすぐに彼は思っ回復しています、良い、強いと感じました。

彼は、彼らがオークションハウスで彼らの奴隷のより良い世話をしていないだろうか理解していませんでした。誰も病弱な子を望んでいません。

ハーロウは、彼女がダウンしてカバー引っ張られて、彼女の小さなカットをチェックするために彼女の足を開いたが、それは消えていました。何が彼らの残っていませんでした。いいえかさぶたノー不均一な肌。彼は最高の彼の指を走ったし、彼女の太ももの下、それは完全に滑らかでした。

ハーロウは部屋の外に歩いて、彼女のドアをロック。彼は緊縛の部屋をきれいにし、滅菌する近くの子分を命じ、その後、彼は隠れ家に深くを残しました。